

いよいよ開幕間近！

蓬萊竜太が2018年に新国立劇場に書き下ろし、私戯曲的な内容として話題を呼んだ傑作を
 蓬萊自らが演出を担い、フルオーデション企画第7弾として上演！

2024/2025 シーズン シリーズ「光景—ここから先へと—」Vol.3

消えていくなら朝

戯曲を期間限定で公開！



社会での最小単位である、家族が織り成す様々な風景から、今日の社会の姿を照らし出し、未来を見つめるシリーズ「光景—ここから先へと—」第3弾の蓬萊竜太作・演出『消えていくなら朝』が7月10日(木)より開幕いたします。

蓬萊が2018年に新国立劇場に書き下ろし、宮田慶子前芸術監督の演出により初演された本作。最も身近で最も厄介な「家族」という存在を蓬萊独自の切り口で描き、その私戯曲的な内容から大きな話題と、高い評価を得て、第6回ハヤカワ「悲劇喜劇」賞も受賞しました。

この傑作を、この度、すべての出演者をオーデションで決定するフルオーデション企画 第7弾として、蓬萊竜太自らの演出で上演いたします。

物語は、家族と距離を置いていた劇作家の定男が恋人を連れて帰省し、18年ぶりに全員が顔を揃えた家族の前で、次回の新作で、家族のことを書いてみようと思うと切り出すところから始まります。

表面的な会話から、だんだんと長年抱えてきた不満や本音が飛び出していく、ヒリヒリとした会話の応酬。

仕事や日常生活というそれぞれの人生と、まるで“呪い”ともとれる「家族」として断ち切れぬ絆の中で、生きていく幸せを問う渾身の作品が、作家本人の手により、再生いたします。

蓬萊自身と自身の家族をモチーフに描き、蓬萊自身もことさら特別な想いを抱いているというこの戯曲を、なんと初日開幕前日の7月9日(水)までの期間限定で公開いたします。

初演をご覧になった方は、その時の感覚を思い出しながら、そして、初めてこの作品に触れる方は、出演者たちに「…」と「(笑)」が多い！と言わしめた蓬萊独自の表現に溢れるこの戯曲が、今回の上演ではどのように立ち上がってくるのか想像しながら、お楽しみいただけますと幸いです。

作・演出の蓬萊竜太からのコメント共に、御媒体での本情報のお取り上げのご検討のほど、何卒宜しく願いいたします。

『消えていくなら朝』戯曲公開ページ URL

https://www.nntt.jac.go.jp/play/news/detail/13_030003.html (6/27 18:00 公開)

公開期間:2025年6月27日(金)18:00~7月9日(水)23:59まで

蓬萊竜太(作・演出)コメント



海外には初日の前に戯曲が発売され、それを読んで、役者がそれをどう演じているのか、どう演出されているのかを楽しみに観劇するという文化があります。読んだ戯曲がどう立体的に立ち上がっているのか、そこにも演劇の楽しさがあります。日本では中々実現しないケースですので、是非これを機会にそういう観劇の楽しみ方を味わってほしいです。想像力を膨らませながら、劇場に足を運んで頂けると嬉しいです。

<公演概要>



(上段 左から)大谷亮介、大沼百合子、関口アナン
(下段 左から)田実陽子、坂東 希、松本哲也

【公演名】シリーズ「光景—ここから先へと—」Vol.3 『消えていくなら朝』

【公演日程】2025年7月10日(木)~27日(日)

【会場】新国立劇場 小劇場

【作・演出】蓬萊竜太

【出演】大谷亮介、大沼百合子、関口アナン、田実陽子、坂東 希、松本哲也

【芸術監督】小川絵梨子 【主催】新国立劇場

【公式 HP】<https://www.nntt.jac.go.jp/play/morningdisappearance/>

<ものがたり>

家族と疎遠である劇作家の定男(僕)は、彼女を連れて帰省する。18年ぶりに家族5人全員が揃う夜、続いていく家族の他愛ない会話。しかし定男に対してはどれも棘がある。家族は定男の仕事に良い印象を持っていないのだ。定男は切り出す。

「...今度の新作は、この家族をありのままに書いてみようと思うんだよね。」

そして激しい対話が始まった。

家族とは、仕事とは、愛とは、幸せとは、人生とは、そして表現とは。本音をぶつけあった先、その家族に何が起こるのか、何が残るのか.....。

<本件に関するお問い合わせ>

制作部演劇 広報担当:杉田 TEL:03-5352-5738 FAX:03-5352-5737